

# 吉川区 地域協議会だより

(第41号) 令和3年1月発行  
発行 吉川区地域協議会  
編集 たより編集委員会  
事務局 吉川区総合事務所  
総務・地域振興グループ  
TEL 025-548-2311

## 『新年のごあいさつ』

吉川区地域協議会 会長 山岸 晃一

新年あけましておめでとうございます。

昨年は私も生まれて初めてほぼ雪のない冬を経験して、水不足を大変心配しましたが、結果的には稲作等にも大きな影響もなく過ごせた年でした。

コロナ禍の中、新体制で活動を始めた地域協議会ですが、地域活動支援事業の提案事業の審査で始まり、10月には市からの報告事項として「公の施設の再配置計画について」の説明を受けました。このことについては、時間をかけてそれぞれの対象者の皆さんと意見交換をさせていただきたいと思っております。

我々地域協議会は、市長の附属の諮問機関であり、かつ自らも地域を元気にするための事業を提案することができる立場です。そのために、今期の活動の中心として、区内各種団体の皆さんとの意見交換を重視して活動してまいりたいと考えております。

吉川区の特徴（お宝）を再認識して頂き、吉川区にはこんなすばらしいものがあるという自負を持ち、若い人たちにも住みやすい所であるという認識を持ってもらえるようにしたいものです。今後、吉川区の発展と活性化に向けて、何が大事で何を維持すべきか、また何を始めるべきか、地域協議会委員の皆さんと考え、地域の皆さんのご意見をいろいろな場面で吸収し、それを踏まえて活動していく所存です。

今年も、様々な行事が新型コロナウイルス感染症のため従来どおり開催されるとは限りませんが、総合事務所の皆さんと協力して吉川区の活性化を図りたいと考えています。

終わりに、区民皆様のこの一年のご健勝とご多幸をお祈り致します。

## 吉川区地域協議会委員 『新年の抱負』

新しい年を迎え心も新たな時かと存じます。今年も、地域・社会にとって様々な出来事が予想されますが、真摯に向き合い、諦めることなく堅実に着実に前へ進むことが、必ずやこの地の将来へ繋がるものと考えております。

副会長 薄波 和夫

新年あけましておめでとうございます。

2期目の任期として、このコロナ禍で何ができるか？地域の皆さんのご意見を拝聴して、少しでもより良い吉川区になるよう努めてまいります。

副会長 佐藤 均



新年あけましておめでとうございます。今年も地域の皆様からのご意見・ご要望を多くお聞きしながら、明るく活力のある地域づくりに委員12名が力を合わせて取り組んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

五十嵐 豊

新年あけましておめでとうございます。少子高齢化、1人世帯、人口減少、限界集落の発生、さらに、上越市の様々な経費削減等による心の拠り所の減少、安心安全な暮らし、魅力ある地域にするために微力ながら努めたいと思ひます。

高野 幸夫

地域活動支援事業の審査では、地域の発展のために尽力される活動を多々聞かせていただき良い機会でした。そのうちのいくつかには実際に足を運んで体験もできました。また、今年も活発な活動の提案をお待ちしています。

江村 奈緒美

新年明けましておめでとうございます。協議会委員として二期目に入りました。一期目の反省を踏まえ、今年には活動の場を拡げたいと考えています。様々な問題を抱えていることに、真摯に向き合いたいと思ひます。

中村 正三

令和も早、2年が過ぎ3年目に入りました。委員として何をするのか、何ができるのかを、今一度見つめ直し区民の皆様と喜べる年にしたいと思ひます。世界的にもまだまだ厳しい大変な状況ですが、健康面には十分注意し、共に頑張っていきましょう。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

大滝 健彦

明けましておめでとうございます。地域協議会委員として、地域協議会活動に参加してきました。今までの生活環境と違う考え方に遭遇して、困惑していますが、少しでも、地域のためになれるように頑張りたいと思ひます。

橋爪 正平

丑年の今年はずっくりと夢の実現を目指します。地域協議会委員就任時に皆様へ夢の実現について、ステップ1・ステップ2・ステップ3計画をお伝えしました。今年はずステップ1です。お力を頂いております方々よろしくお願ひいたします。効 御期待を。

片桐 利男

新年のご挨拶を申し上げます。今、上越市では公民館分館の見直しが提案されました。公民館は地域の「親睦」と「絆」や生涯学習の役割も果たしています。自然の恵みを生かした食品や地域資源を活用し素晴らしい吉川区を発信し、交流人口の増加に繋がります。吉川区のために頑張ります。よろしくお願ひ申し上げます。

関澤 義男

新年明けましておめでとうございます。委員に任命されて9ヶ月。今更ながら役割の重さをひしひしと感じています。専門部会の活動も始まりました。少しでも地域のお役にたてるよう頑張っていきたいと思ひます。

平山 浩子



## ＜地域協議会の活動報告 1＞

### 自主的審議事項『公民館を含む地域活動の促進と施設の有効活用について』

第5回地域協議会において、市から「公の施設の適正配置計画について」の報告がありました。人口減少、財源不足、公の施設の状況等を考えると今後の市民生活を支える基礎的なサービスを安定的に提供していくためには、施設の貸付、譲渡、廃止や機能の集約を行う必要があります、公の施設の適正配置計画を進めていくとのことです。

また、第6回地域協議会では、吉川区内にある生涯学習センターと公民館について次のような報告がありました。

- ・地域活動の場がなくならないように配慮する必要があるが、公民館分館等の施設が大きく地域の団体等に建物を譲渡する場合、譲渡先の負担が大きく現実的ではない。
- ・今後の施設の老朽化を考慮しても長寿命化対策は困難な状況にあるが、閉校した小学校を活用した施設等であるため施設管理運営の改善に努める必要がある。

以上のことから「地域生涯学習センター」及び「公民館分館」の方向性を地域の皆さんと協議した結果、下記の表のとおりとなったことが第7回地域協議会で報告されました。

その報告に対して、次のような質疑応答がなされました。

質問：どうして結論を急ぐのか。今後1、2年かけて協議すべきではないか。

回答：国から計画案を令和2年度末までに策定するよう求められ、急いでいるが、計画については、今後地域の皆さんと時間をかけて協議していく。

質問：公民館分館が避難所になっているところがあり、避難所もなくなるということか。

回答：公民館分館という看板がなくなっても、施設はそのまま避難所として残る。

意見：公民館分館は地域の拠り所であり、施設がなくなると地域づくり活動が停滞し、地域が衰退してしまう恐れがある。

意見：コロナ禍で町内会館では3密になるため会議ができず、公民館分館のような広い施設が必要である。

意見：なくすのであれば建物を取り壊し、危険のないよう更地にしてほしい。

これらの議論を踏まえ地域協議会では、この案件を自主的審議事項とし、今後検討していくこととしました。

#### 公の施設の適正配置計画における各施設の方向

施設名	今後の方向性（案）		完了年度	計画期間中のスケジュール				
		説明		R3	R4	R5	R6	R7
吉川地区公民館（吉川多目的集会場）	現状維持		-	継続	⇒	⇒	⇒	⇒
源地域生涯学習センター	貸付又は譲渡	特定の地域住民に利用が限られるため地域団体へ貸付又は譲渡する。	R6	継続	⇒	⇒	貸付又は譲渡	
吉川旭地域生涯学習センター			R7	継続	⇒	⇒	⇒	貸付又は譲渡
吉川地区公民館東田中分館			R5	継続	⇒	貸付又は譲渡		
吉川地区公民館泉谷分館			R6	継続	⇒	⇒	貸付又は譲渡	
吉川地区公民館勝穂分館			R5	継続	⇒	貸付又は譲渡		
吉川地区公民館竹直分館			R6	継続	⇒	⇒	貸付又は譲渡	
吉川地区公民館源分館			R6	継続	⇒	⇒	貸付又は譲渡	
吉川地区公民館旭分館			R7	継続	⇒	⇒	⇒	貸付又は譲渡
吉川地区公民館川谷分館	現状維持		-	継続	⇒	⇒	⇒	⇒

※新聞報道によると「公の施設の適正配置計画」は12月にパブリックコメントを行い、2月下旬に公表予定とのことです。

## <地域協議会の活動報告 2 >

### 『地域の課題解決のため 3 分科会を設置』

少子高齢化などの地域の課題を解決するため、地域協議会では下記の3つの分科会を設置し、今後協議を進めていきます。地域の皆さんとの意見交換も予定しており、皆様の率直なご意見をお寄せください。(表中の○はリーダー)

#### ◆高齢者対策(交通確保)分科会

構成委員

○片桐利男、橋爪正平、  
五十嵐豊、佐藤均

#### ◆若者移住・定住分科会

構成委員

○平山浩子、江村奈緒美、  
大滝健彦、山岸晃一

#### ◆地域づくり分科会

構成委員

○中村正三、高野幸夫、  
関澤義男、薄波和夫

### 『令和2年度頸北地区地域協議会委員合同研修会報告』 副会長 佐藤 均

令和2年10月24日、吉川体育館において頸北地区(柿崎区、大潟区、頸城区、吉川区)地域協議会委員合同研修会が行われました。講師として上越保健所長、山崎理様より「地域医療構想と地域包括ケア～上越・頸北地域を考える」と題して、2025年の医療体制の推計と住み慣れた地域で医療、介護等が確保される地域包括ケアシステムについての講演と新潟県立柿崎病院後援会長、楡井辰雄様より「地域づくりの中での柿崎病院の今後」と題して、柿崎病院を利用する患者数が最大で年間8万人(平成13年)であったものが、半分の4万人(平成30年)まで減少していることなど、柿崎病院の現状と元気な地域でなければ人は来ないという講話がありました。また、新潟空港から全国に行けるトキエアー(地域ネットワーク航空)計画の話が興味深かったです。

最後に各区の地域協議会代表者による活動報告が行われ、吉川区では山岸会長が活動報告を行いました。



新型コロナウイルス感染症の影響は甚大です。あらゆる催し物が中止、延期され、残念なことです。今年度は地域の皆様の声に耳を傾ける機会が少なかったことは大きなマイナスです。令和3年度は区内の団体の皆さんと地域協議会が力を合わせ、未来を考えて積極的に行動すれば、素晴らしい吉川区が築けると確信しています。地域協議会で議論し、行政等に必要な支援や協力、要望をする所存です。会議の傍聴にぜひお出かけください。本年もよろしくお願いたします。



第41号地域協議会だより編集委員  
片桐 利男、関澤 義男、高野 幸夫